

様式 2

ふ る さ と 樹 木 診 断 調 書

樹木の名称	愛知教育大学岡崎小学校のクスノキ			[市町村名]	岡崎市	No.	22
診断年月日	2023年11月13日						
診断者	樹木医 中山和彦 杉浦義隆						
立会者	愛知教育大学岡崎小学校 白井先生・西三河農林水産事務所林務課主査 長谷川令子・岡崎市公園緑地課技術員 森本涼太						
樹 木 の 形 態 等							
樹種名	クスノキ			樹木保存法 文化財（条例）要綱 要領			
所在地	岡崎市六供町字八貫15			指定種別 天然記念物 国 県 市 町 村)			
所有者(管理者)	愛知教育大学岡崎小学校			地域のシンボル			
樹齢	推定・伝承 150 年			成 成 立 地 境内 構内 公園 庭 市街地 (その他) (校庭)			
樹高	13.5 m			日照 良 並 不良			
幹周	4.93 m			立 通 風 良 並 不良			
枝張	東へ	南へ	西へ	北へ	乾湿 乾 並 湿		
	7.6 m	8.2 m	9.0 m	11.4 m	排水 良 並 不良		
下枝高	1.6 m (北)			環 土 境 踏圧 無 やや堅い 堅い すこぶる堅い			
写 真				土性 砂土 砂壤土 壤土 埴壤土 埴土 石礫土			
							
全景(西側から)				全景(西側から) 岡崎市ふるさとの名木冊子 より抜粋 平成〇〇年選定			
							
全景(東側から)				全景(北側から)			

樹 勢 の 診 断			樹木の名称	愛知教育大学岡崎小学校のクスノキ	No.	22
測定項目	評 価		測定項目	評 価		
樹 勢	生育状態が良好	若干被害がある	病 害	葉の病気	有 ()	無
	異常が認められる	生育状態が劣悪		枝や幹	有 ()	無
樹 形	自然形を保持	若干乱れるが自然樹形	虫 害	食葉性		無
	自然樹形の崩壊が進行	自然樹形が完全に崩壊		吸汁性		無
	人工樹形			穿孔性		無
枝の伸長量	正常	幾分少ないが目立たない	気象害	寒害	凍害	風害
	枝は短く細い	枝は極度に短く捻れもある		その他 ()	乾燥害	落雷
梢端の枯損	無	少しあるが目立たない	土 壤	踏圧害	乾燥害	湿害
	かなり多い	著しく多い		空洞	腐朽	(外科手術痕)
枝葉の密度	枝葉のバランスが良	枝葉のバランスがやや劣	幹	根株の腐朽	有	無
	やや疎	枯枝が多く密度が著しく疎	根	きのこの発生		不明
幹、大枝の状況	正常	傷、空洞が少々あるが目立たない	その他	コフキタケ		
	傷、空洞、腐朽菌が認められる			植物等の着生		
	傷、空洞、腐朽菌が著しく目立つ			腐朽部にクサギ・エノキ		
現況 ・1902年に開校された当小学校の校庭の近くで生育している。開校当時の植栽と考えれば樹齢は150年程度である。葉は小さく少なく退色している。当年枝の伸長量は少なく枯死枝が散見され衰弱傾向にある。また葉にはクスベニヒタカスミカメの吸汁痕があり衰弱の一因にもなっている。 ・樹形は大枝の高さが低く横方向へ伸長し、所々で枝が上方に伸長した変形樹形である。 ・高さ4.0m付近で主幹が折損し折損部より地際にかけて内部が腐朽空洞化している。腐朽範囲は広く（高さ4.5m×幅45cm×深さ120cm/測定ヶ所の幹直径160cm）地際から上部にかけて全体的に打音異常がある。空洞部にはウレタン処理をした形跡がある。 ・南東方向7.6m付近にメタセコイヤの新しい切り株がある。数年前まではクスノキに対して陽光を遮っていたものと思われる。クスノキの枝には日照改善による胴吹き枝が散見される。ただし胴吹き枝の伸長量は少なく弱々しい。 ・根元に接する形でU字溝が設置されている。深さ40cm程度あり根系の伸長や肥大成長の妨げになっている。U字溝は土が詰り本来の役割が果たせていない。 ・診断木の南側で校庭から離れた位置で生育している樹木は順調な生長をしており土壤に大きな問題が無いことが推測される。 ・北側5.0m地点と南側5.0m地点で長谷川式土壤硬度試験により硬度を測定した。北側は極めて固結し根系の伸長は不可能な結果であった。南側も硬く締まっており根系の伸長は困難な状態であった。						
原因 ・学校が高台にあり、風の影響を受けやすい状態で生育している。主幹の折損は強風や台風による折損と思われる。大枝にも折損箇所が散見されることから風による被害が多く発生している。 ・樹木が上方に伸長するためには、根系が深い所へ伸長する必要がある。診断樹は大枝が上方へ伸長していないことから根系が浅いことが推測される。浅い根系は夏の乾燥被害を受けやすく樹勢衰弱の一因になる。 ・校庭の反対側は根系の伸長が困難な状態で、校庭側は伸長が不可能な硬さである。根系の伸長不良は樹勢に大きく影響を及ぼす。衰弱の最大の原因は土壤の固結にあると思われる。						
対策 ①枯枝・衰弱枝の切除 枯枝が著しく多く発生している。落枝の危険があるため早急な除去が望ましい。衰弱枝も今後落枝の危険があるため順次剪定していくことが望まれる。 ②土壤の膨軟化 根系の伸長が不可能なほど硬いため、根系が伸長できるよう土壤を膨軟化する必要がある。対象木の周囲全体が硬いため樹冠内の全域が対象範囲である。急激な土壤の変化は対象木に悪影響を与えるため、複数年をかけて計画的に実施していく必要がある。 ③根系伸長域の踏圧防止策 根系域の土壤膨軟化後、踏圧による再度の固結化を防ぐため、立ち入り防止柵や板張り等により根系を保護していく必要がある。 ④腐朽空洞部の乾燥 腐朽空洞部にウレタンやコンクリートが詰め込まれている。現在の樹勢回復では、腐朽部の処置として乾燥し腐朽の進行を遅らせる方法が主流になっている。異質物による閉鎖は過度な湿気を生じるため撤去が望ましい。						



主幹折損部からの腐朽空洞



上部の衰弱・枯死枝



大枝の腐朽部
風害による大枝折損後の腐朽か？
その他に数ヶ所ある



南東側のメタセコイヤ切り株



根元に接したU字溝